

大田区自立支援協議会 令和5・6年度 第1回地域生活部会議事録

文責：事務局

(1) 会議の名称	大田区自立支援協議会 令和5・6年度 第1回地域生活部会			
(2) 開催日時	令和5年6月6日(火) 10:00~12:00			
(3) 開催場所	大田区立障がい者総合サポートセンター 5階 多目的室			
(4) 出席した委員、事務局	伊藤 朋春	山根 聖子	小松代 菜央	小野 英次郎
	大場 貴弘	定森 由香	渡邊 晃嗣	
	区事務局：土岐 親跡 齋藤 鈴木			
(5) 内容・要旨	<p>1 議題</p> <p>(1) 事務連絡</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出欠確認 ・部会の開催日程、年間スケジュールの確認(別紙) 8月は開催しない。作業部会の場所は確保しているので、必要に応じ開催。 ・司会、書記(議事録)について 司会は伊藤部会長、書記は当番制、第1回は事務局が記録。 <p>(2) 令和5・6年度の活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各委員及び事務局より自己紹介 ・副部会長について 部会長：今年度も仕事で参加できない時がある場合に備えて、昨年同様、山根委員を副部会長としてついでにもらいたいと考えている。(一同承認) ・地域生活部会のテーマの設定 部会長：令和3・4年度は、前半に幼少期・学齢期・成人期・高齢期のライフステージごとの課題の抽出と整理。後半は、理解啓発が10年後の大田区で暮らしやすくなることにつながるという視点で、話し合いを進めてきた。 今年度は、将来を見据えた話をしていきたい。 「令和4年度大田区障がい者実態調査結果報告書」の結果をもとに、課題を抽出していきたい。 A委員：10年後の話をしながら、今できることもおさえていく。 B委員：小学校で障害理解と啓発について話をしている。子どもたちが成長する10年後が理解する人が増え暮らしやすい温かい社会になっていることを期待しながら話をしてきた。 C委員：大田区に住みたい、将来も大田区に住み続けたいと思わせるために、協議会としてできることがあるのではないか。 →理解啓発としてアプローチ D委員：今は種をまいている状況。それが10年後花開くイメージ。 			

B委員：近所の人から啓発していく中で周りに広げていき、それが大田区全体に広まっていくイメージ。地域住民としての理解啓発。

A委員：理解啓発というより、知ってもらうことが必要ではないか。

D委員：理解啓発というより、触れ合うことの方がスモールステップとしてよいのではないか。

◎部会のテーマとして

「10年後も住み続けたい大田区へ～世代を越えて知る機会を～」

とし、3障がい（知的・身体・精神）に特定せず、色々な課題を見つけ出し検討を進めていく。

・次回から検証していく内容について、「令和4年度大田区障がい者実態調査結果報告書」のアンケート項目から絞っていく。

「日中活動や就労について」「相談や情報について」「将来の暮らし方について」の中から話し合うテーマを決めていきたい。

次回の開催までに、今後討議したい内容を一人一つ、理由も考えておいてもらう。

2 その他

・第1回運営会議報告
自立支援協議会の構成について説明。

・ご意見カードについて
意見や感想などがあれば提出してほしい。

以上